

東伊豆町のこども達の未来を拓く 教育環境整備の方向性について

2025.4

教育委員会事務局

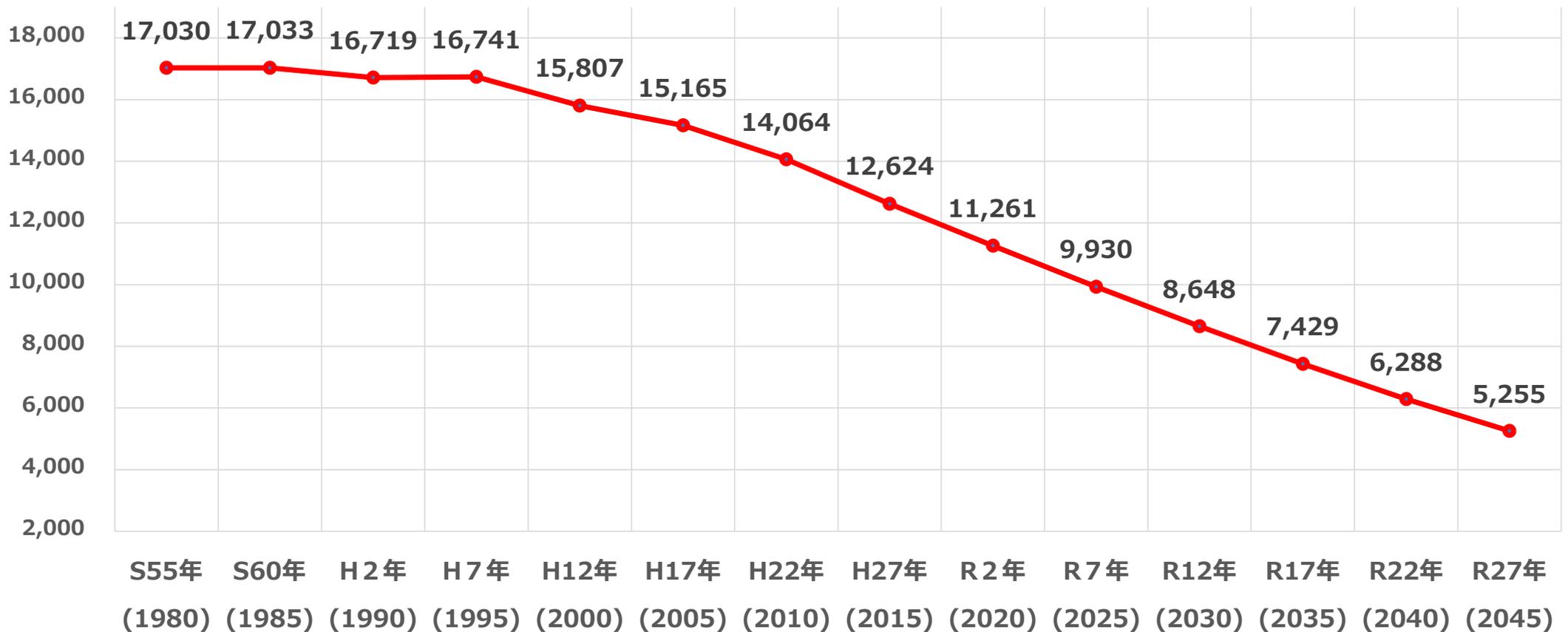
本日の流れについて

- 1 東伊豆町の現況と今後の推計
- 2 学校教育環境整備委員会での検討内容
- 3 現時点での検討内容
- 4 今後の計画

1 東伊豆町の現況と 今後の推計

東伊豆町の人口推移

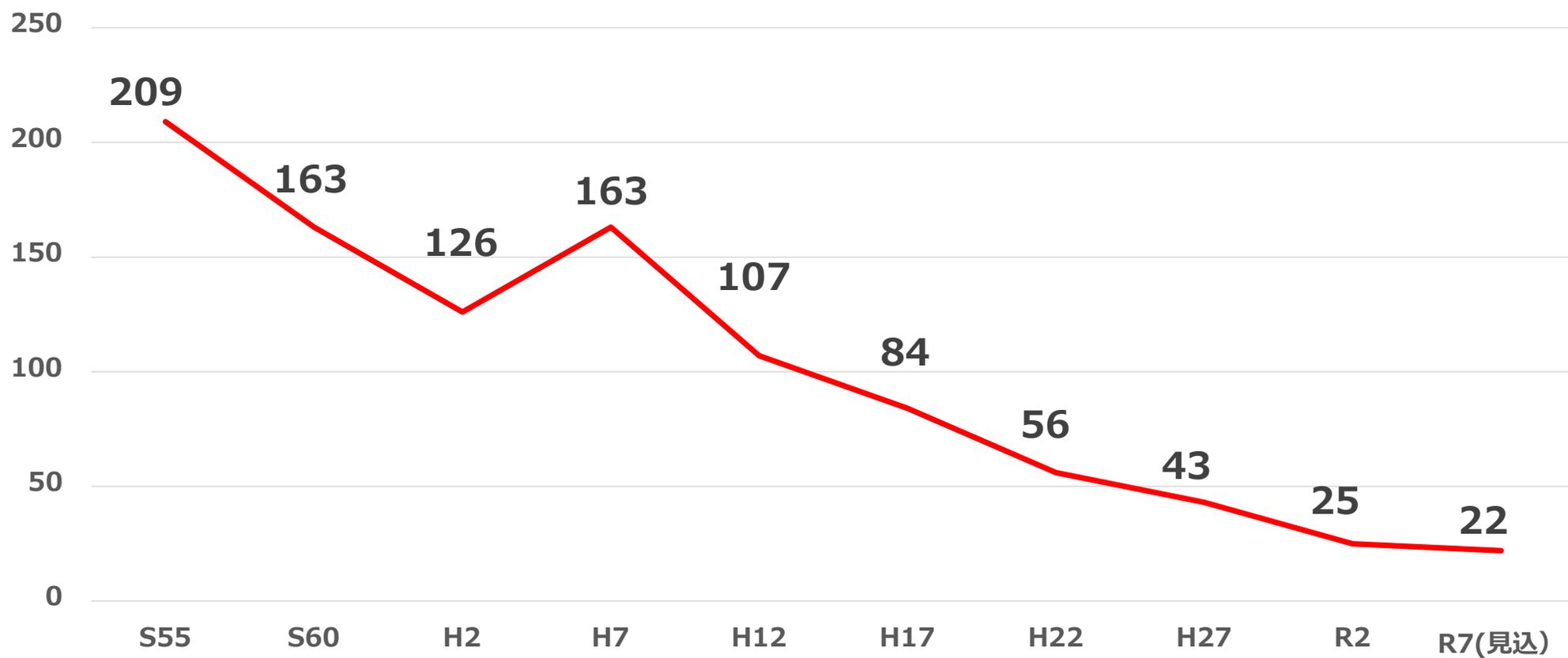
(単位：人)



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30（2018）年推計）

東伊豆町の出生数推移

(単位：人)



令和7年度 東伊豆町立学校 児童・生徒数

	熱川小学校		稲取小学校	
	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	13	1	21	1
2年	20	1	17	1
3年	21	1	15	1
4年	28	1	29	1
5年	26	1	32	1
6年	23	1	36	2
計	131	6	150	7

合計：281人 13学級

	熱川中学校		稲取中学校	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	27	1	27	1
2年	18	1	38	2
3年	23	1	39	2
計	68	3	104	5

合計：172人 8学級

	ひがしいず幼稚園	
	園児数	学級数
年少	6	1
年中	5	1
年長	4	1
計	15	3

小中合計：453人 21学級

※学級数：特別支援学級は除く

小・中学校生徒数推計（令和15年度）

（単位：人）

	計	大川	北川	奈良本	熱川	片瀬	湯ヶ岡	白田	田町	西町	東町	入谷 水下	
小1	25	1	1	6	0	2	1	0	7	3	1	3	
小2	20	1	0	5	0	2	1	1	6	1	1	2	
小3	19	0	1	1	2	2	0	0	3	2	5	3	
小4	23	1	0	5	0	3	1	0	9	1	1	2	
小5	22	2	0	7	0	1	1	0	3	4	1	3	
小6	18	1	0	7	0	2	1	0	4	0	0	3	
小学生 計	127	城東地区 59 人						稲取地区 68 人					
		0	1	10	0	2	1	1	12	2	2	5	
中1	36	3	0	3	0	3	3	1	16	0	1	1	
中2	31	1	1	7	0	5	2	3	6	4	1	4	
中3	34	4	2	20	0	10	6	5	34	6	4	10	
中学生 計	101	城東地区 47 人						稲取地区 54 人					
		10	4	51	2	22	11	6	66	17	13	26	
合計	228	城東地区 106 人						稲取地区 122 人					

※ 小学校1年生（令和7年度生まれ）、小学校2年生（令和6年度生まれ）は推計値

統合した時の学級数見込					
	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年
小1	1	1	1	1	1
小2	1	1	1	1	1
小3	2	1	1	1	1
小4	1	2	1	1	1
小5	1	1	2	1	1
小6	2	1	1	2	1
中1	2	2	1	1	2
中2	2	2	2	1	1
中3	2	2	2	2	1
	14	13	12	11	10

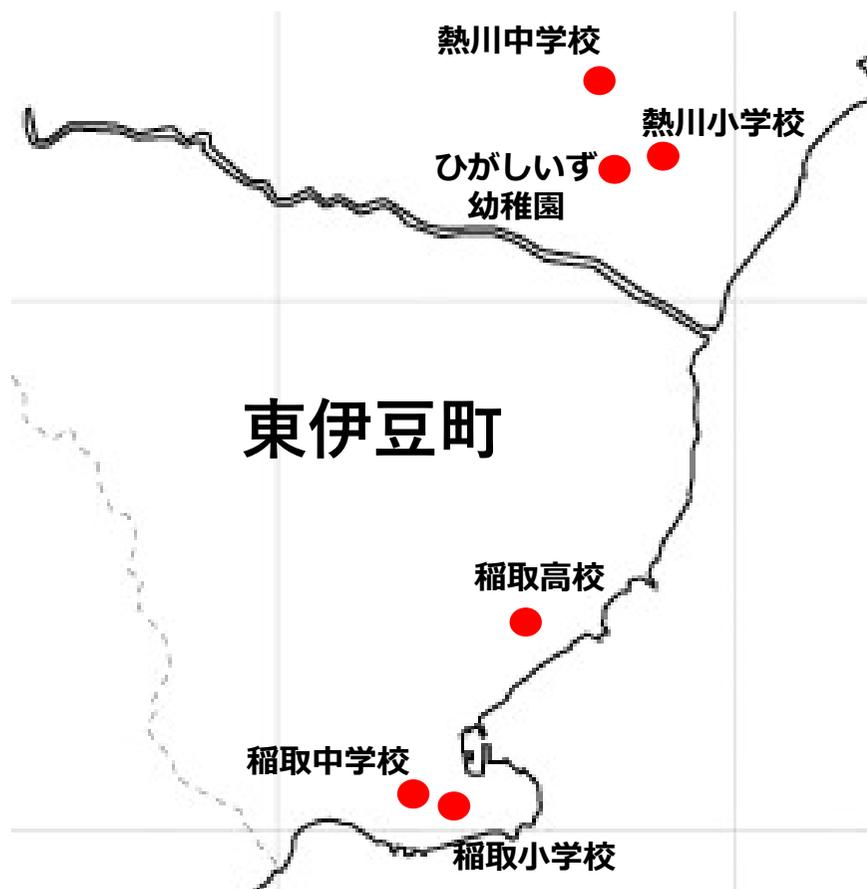
※学級数：特別支援学級は除く

町立学校 校舎等概要

	熱川小学校	稲取小学校	熱川中学校	稲取中学校
敷地面積	24,546㎡	14,417㎡	23,339㎡	14,371㎡
校舎	S49年 (築51年) H23大規模改修	S45年 (築55年) H23大規模改修	S38年 (築62年) H23大規模改修	S30年 (築70年) H23大規模改修
校舎構造	鉄筋コンクリート 3階建	鉄筋コンクリート 4階建	鉄筋コンクリート 3階建	鉄筋コンクリート 4階建
校舎面積	4,818㎡	4,761㎡	3,532㎡	4,008㎡
体育館	S52年3月 (築47年) 1,500㎡	S51年3月 (築48年) 2,106㎡ 2階建	H12年2月 (築24年) 1,784㎡	H10年2月 (築26年) 1,870㎡
運動場	11,079㎡	10,123㎡	15,792㎡	8,946㎡

町内学校の建替時期

建替までの年数を計算するにあたり、各学校の建物の耐用年数を70年とする。



学校名	建築年	築年数	建替までの年数
ひがしいず幼稚園	平成20年 (2008年)	17年	53年
稲取小学校	昭和45年 (1970年)	55年	15年
熱川小学校	昭和49年 (1974年)	51年	19年
稲取中学校	昭和30年 (1955年)	70年	0年
熱川中学校	昭和38年 (1963年)	62年	8年
稲取高校	昭和42年 (1967年)	58年	12年

2 学校教育環境整備委員会 での検討内容

諮問事項①（平成27年7月28日）

- (1) 東伊豆町における町立幼稚園・小学校・中学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方について
- (2) 東伊豆町における町立幼稚園・小学校・中学校の規模及び配置の適正化に向けた再編整備等具体的な方策について

答申①（平成29年3月24日）

- (1) 学校教育は、一定の人数が確保された環境で、子ども達の関わり合いを重視した教育が進められることが大切である。未来を見据え、地域一体となった東伊豆町の教育を目指し、再編整備を進めるべきである。
- (2) **中学校を統合し、幼稚園・小学校はできる限り現状を維持する。
又は、熱川・稲取地区に、それぞれ小中一貫校を整備する。**



**平成30年に小中一貫教育研究会を立ち上げ内容検討し
令和3年に住民説明会を実施**

諮問事項②（令和4年4月27日）

- (1) 東伊豆町における小学校・中学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方について
- (2) 東伊豆町における小学校・中学校の規模及び配置の適正化に向けた整備の具体的な方策について

答申②（令和4年12月15日）

- (1) 今後の児童生徒数減少を考慮し、小・中学校の規模及び配置の適正化を図ることが望ましい。
- (2) **より良い学校教育環境を整備するため、町立小・中学校は、現在の小中4校を統合し、小中一貫校1校とすることが望ましい。新たな小中一貫校の場所は、敷地面積や築年数、幼稚園・図書館との連携のしやすさ、町内各所からの通学距離等を考慮し、現在の熱川小学校か熱川中学校とすることが適切である。**

諮問事項③（令和5年10月24日）

東伊豆町における新しい教育の在り方について

- (1) 町立幼稚園・小学校・中学校と県立高校の一貫性のある教育の考え方について
- (2) 町立幼稚園・小学校・中学校と県立高校の一貫性のある教育の具体的方策について

答申③（令和6年7月31日）

- (1) 幼稚園から高校まで一貫性のある教育を行い、情報化やグローバル化の進展など変化する社会に柔軟に対応する。また、これまで以上に地域と密着した教育活動を展開し、ふるさとに愛着と誇りを持つ子を育てたい。
- (2) **町立幼小中と県立稲取高校の連携強化については、同一敷地内に施設の複合化、共有化を図り一貫性ある教育を進めることが望ましい。幼小中高一貫性ある教育を行う場所は、敷地の状況や位置と通学環境等を総合的に勘案し、現在の熱川中学校とすることが望ましい。**

過去の答申を受けて

過去の答申を尊重しつつ総合的に検討した結果、
幼小中学校（稲取高校との一体的整備）の候補地は、

現在の熱川中学校が適当

3 現時点での検討内容

通学手段の検討について

通学手段として、現時点では以下の通り検討をしている。

(1) 伊豆急行の活用

伊豆急行（片瀬白田駅）の活用

(2) バスの利用

スクールバスの全域利用又は片瀬白田駅からの利用

(3) 徒歩での通学

徒歩での通学の場合、安全な通学路を検討

片瀬白田駅

伊豆急行及びスクールバス利用の場合、片瀬白田駅は、伊豆稲取駅、伊豆熱川駅に比べロータリーが広く、観光動線とも交わりにくいいため、安全性が向上する。

伊豆稲取駅



伊豆熱川駅





(案)

片瀬白田駅を起点
とした通学ルート
イメージ

4 今後の計画

今後のスケジュール（案）

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目
学校整備 スケジュール	用地測量	基本構想	基本計画	校舎 概略設計	校舎 実施設計	校舎 整備工事	校舎 整備工事	開校	(開校)		
		道路 概略設計	道路 実施設計	道路工事	道路工事						
		造成設計									
小学校学級数					7	7	7	6	6	6	6
中学校学級数					6	5	4	4	4	4	3
学級数計					13	12	11	10	10	10	9
備考									熱川中学 耐用年数		



熱川中学校に整備が可能かどうか
必要な調査を進めていく。